

心のとびら

弥富市立桜小学校
道徳通信 No.20
平成27年8月24日

“誠実な気持ち”と向き合う ～5年生の道徳では～

7月13日(月)に5年竹組、15日(水)には松組の教室で、道徳の研究授業を行いました。高学年ともなると、何が善くて何が悪いのかよく理解していると思います。しかし、頭の中では分かっているけど、分からなければいいだろうとか、周りに流されて誤った行動をとってしまうこともあるかと思っています。そこで、『祭りの日の拾い物』という資料を通して、自己の利害にとらわれず、誠実な行為をとろうとすることの大切さについて考えました。

この話には、主人公のけんじが、拾ったサービス券の処置について、突き詰めて考えることなく、自分の欲望に負け、友達のあきらの主張に左右されていく様子が描かれています。しぶしぶサービス券でたこ焼きを買ったけんじは、サービス券を落として泣いている女の子を目にして、立ちすくんでしまうという話です。

けんじの揺れ動く気持ちと、どんな結果につながったのかを考えた後、「自分がけんじの仲間になったら、どうしますか」を考えました。「なぜ、そうしたのですか」と問いかけることで、自分の心の中にある誠実な気持ちと向き合うことができました。また、その考えを発表することで、友達と自分の考えを比較し、思考の幅を広げたり、成長を実感したりすることができました。

みんなの意見、感想

- ★ 落ちていた物は自分の物ではないから、使ってもうれしくないと思います。
- ★ だれのか分からない物を使うのは怖いから、断りたいと思います。
- ★ 後で絶対後悔することになって、自分が嫌になるから、しっかりと行動したいです。
- ★ 揺れ動いても、いい方の行動をすれば、必ず心がすっきりすると思いました。
- ★ 悪いことをすると、いつまでも嫌な気持ちが残るだろうなと感じました。
- ★ 落とし物は届けたほうがいいという素直な気持ちを大切にしたいです。
- ★ 相手が困っていると思ったことは、やってはいけないなと思いました。
- ★ いつでも、相手を自分だと思って行動することが大事だと改めて感じました。
- ★ 「意地でも使わない」という意見がよかったです。自分も見習いたいです。
- ★ 「善いことをすると、善いことが返ってくる」という考えが、いいなと思いました。

